

## 北海道地震津波の記録

## 「海が吠えた日」より

昭和二十一年十二月二十一日

本村 故 村本榮一

二十一日の未明、突然大きな地震が起こった。横揺れで家が大きく揺れ出した。立っておれない。何回となく断続的に揺れる。

港の方を見ると、潮が急に引き出している。どこからともなく、「津波が来るぞ！」の声が聞えてくる。また大きく家が揺れ出したので、まず子供たちを前の原っぱに避難させ、家に戻り布団等を二階に持ち上げて下りようとしたが、揺れがひどく段梯子がはずれそうになった。かろうじて階下に下り、戸締りを厳重にして、家内が下の子を背負う、私は気がせいっていたのか足袋はだして、二人の子供を連れて走りだした。

新町辺りに来るともう小学校の校庭には、第一波の津波が来て

いる。まだ道路までは来ていない。必死に走り、床崎理髪店のあわえを上町の町に出る。このため水には濡れずに杉王さんにたどり着くことができた。ふと気がつく、二人の子供がいらない。あわてふためいて捜すうちに、運よく子供たちも杉王さんに着いており、一安心し、ほっとする。

津波の第二波。第三波はしらないが、東の安土のおじいさんが、中之島の水門の所で津波に吞まれ遭難された。また石川のお婆さんが物を取りに帰り、途中逃げ遅れて横尾の隣の家へ、木材と一緒に巻込まれ遭難した。さくらやおばさんも、子供を背負って逃げる途中に、子供が背中からずり落ち死なせた等、数々の死傷者が出たことは、当時の惨状を物語るものである。

夜明けを待ちかねて家に帰ってみると、店は壊されている。家は入口の柱二本が折れていた。その上、川に堤防がない時だから、漁船が打ちあがって店の前につぶり斜めに塞いで、入るところがない。両方の壁は打ち抜かれ、商品は半ば流失し、無残な状況でした。

今にして思えば、津波は二波、三波と来る。津波に巻込まれると歩けなくなり、引潮に吞まれることがある。津波は地震直後に来るから、家財等に執着せずに、早く安全な場所に逃れること、また近所の人々に津波が来るぞ！と大声で知らせること、等が必要だと思います。今後、天災、地変はいつ来るとも知れない。私の体験を書き、まさかの役にたてばと思うしだいです。